

病院のお仕事いろいろ

患者さんに 寄り添うリハビリを



医療技術部
リハビリテーション部門
理学療法士

川村 由佳
(かわむら ゆか)

病気、怪我や高齢などによって身体機能が低下した状態の患者さんに対し、基本動作となる起き上がりや起立、歩行の維持・改善を目的に運動療法や物理療法(温熱、電気などの物理的手段を用いるもの)を行うのが理学療法士の仕事です。徳島大学では様々な診療科の、小児から高齢者まで幅広い年齢の患者さんのリハビリを行っています。

理学療法士という仕事に興味を持ったきっかけは、高校生の頃に祖母のリハビリ風景を見学したことでした。患者さんの気持ちに寄り添って、その人の生活をより良くする素敵な職業だと思い、理学療法士を目指しました。患者さん一人一人の状態に合わせて、どのようなリハビリがよいのか日々模索しながら業務にあたっています。回復に時間を要して歩けなかった患者さんが歩けるようになったり、患者さんご本人から「動きやすくなった」などの言葉をいただいたりすると、やりがいを感じます。

現在は脳卒中の患者さんを中心に担当していますが、それまではがん患者さんのリハビリを多く担当してきました。がん患者さんは抗がん剤など治療の影響で身体機能が低下してしまうことが多く、身体機能の維持や改善のためのリハビリが必要となるケースがあります。また、緩和ケアに移行された患者さんに対してもリハビリを行う場合もあり、患者さんが希望するより良い日常生活を送るためにはどのような介入を行うべきか悩むこともあります。作業療法士、言語聴覚士、医師、看護師、臨床心理士など他職種と連携し、患者さんの生活がより良いものとなるサポートができるように努力しています。

これからも病院内の多くの医療スタッフと情報共有、連携を大事にし、患者さんに寄り添うリハビリテーションを行うことができるよう取り組んでいきたいと思ひます。



治験を実施しています

現在、開発中の医薬品の候補(治験薬)あるいは医療機器を用いた治験を、以下の病気を対象に実施しています。参加いただいた患者さんにおけるデータを集め、有効性や安全性を確認して医薬品や医療機器としての「承認」を得ることが治験の目的ですが、参加いただいた患者さんにとって良い効果をもたらす場合もあります。まずは、よく情報を得ていただきたいと思いますので、**お気軽にお問い合わせください。**

- 尿路上皮癌 ●腎細胞癌 ●小児2型糖尿病
- 筋層浸潤性膀胱癌 ●てんかん ●網膜静脈閉塞症
- 転移性去勢抵抗性前立腺癌 ●網膜静脈閉塞症
- 肺癌 ●肝細胞癌 ●肝硬変 ●間質性膀胱炎
- 多発性骨髄腫 ●潰瘍性大腸炎 ●統合失調症
- クローン病 ●大うつ病
- 心臓リハビリテーションの適応となる心疾患

ちけん君は日本医師会治験促進センターのキャラクターです。

問合せ：総合臨床研究センター
tel.088-633-9294

ご協力
お願
い
し
ま
す。

